

平成17年度

# 前橋市自然環境調査

(哺乳類・は虫類・両生類調査)

—概要版—



前 橋 市



### 前橋市自然環境調査の目的

本調査は、前橋市の自然環境の現況を調査・把握し、良好な自然環境および残された自然の保全のため、基礎的データを収集し、過去に実施された調査との比較を行うことによって、「前橋市環境基本計画」に示す環境像「多様な生態系が維持され、市民に潤いと安らぎを与える自然環境が守られ、はぐくまれるまち」、および「市民、事業者が主体的に環境保全活動に参加するまち」を推進することを目的としています。

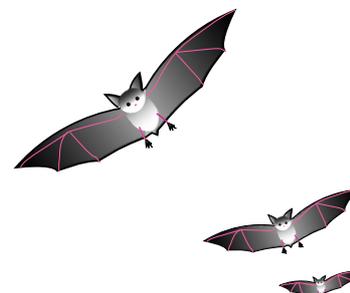
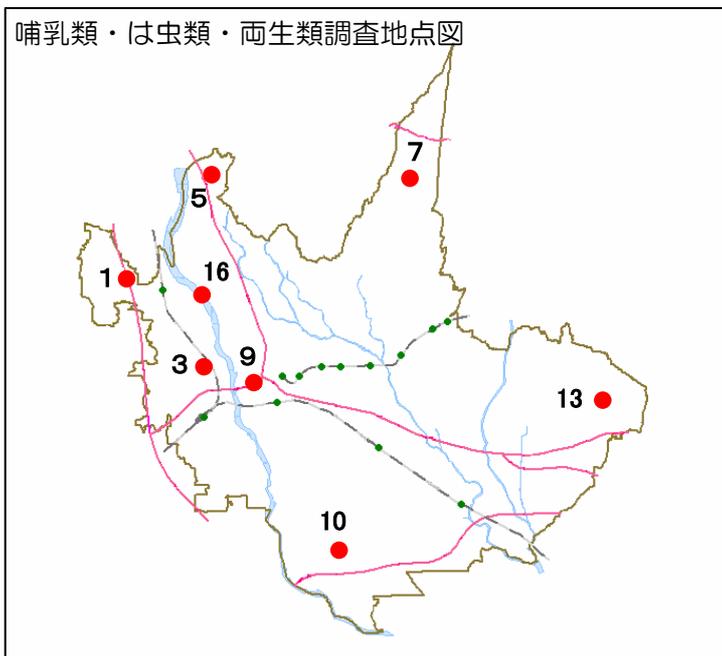
前橋市では、合併前の旧市域において、平成9・10年度に動物（鳥類・哺乳類・は虫類・両生類・昆虫類・魚類・水生生物）、植物（植物相・植生）の基礎調査を実施しており、平成14年度は植物調査、平成15年度は鳥類調査、平成16年度は魚類・水生生物調査、平成17年度は哺乳類・は虫類・両生類調査を実施しました。



### 調査の概要

本調査は、前橋市による調査と市民による調査で実施しました。調査の内容、期間等の概要は、以下のとおりです。

調査内容	実施者	調査実施日	調査地点
哺乳類・ は虫類・ 両生類調査	前橋市	①平成17年6月7日 ～平成17年6月10日 ②平成17年8月22日 ～平成17年8月25日	基礎調査を実施した 8地点
市民調査 (市主催)	市民	平成17年5月29日	嶺公園
市民調査	市民	平成17年6月1日 ～平成17年7月31日	各調査員の身近な場所



※基礎調査では7地区17地点で調査を実施したが、今回はそのうち7地区8地点を選定し調査を実施した。

地区・河川	地点	地点概要
清里 ・総社	No. 1 八幡川沿い	八幡川沿いに広がる農耕地で、畑地が多いが水田も存在する。河川沿いには主にオニグルミ、エノキ、アカメガシワなどからなる河畔林が続いており、クズが密生している箇所が多くみられる。水際はコンクリート護岸がほとんどで自然護岸は少ない。周辺には民家が散在し、スギの社寺林や牛舎も存在する。
元総社 ・東	No. 3 染谷川沿い	郊外の住宅地であるが、染谷川沿いには小規模な耕作地や荒地が散在している。染谷川はほぼ全域が急傾斜のコンクリート護岸で、一部にハリエンジュなどの河畔林がみられるほかはクズやイネ科草本に覆われる部分が多い。
南橋	No. 5 中子沼～ 橋山周辺	調査地点の西部に橋山、中央に丘陵部の尾根、東部に丘陵部の谷戸がみられ、典型的な里地、里山環境であると言える。橋山にはアカマツ林やコナラなどの広葉樹林が分布し、山麓の台地には苗圃や畑地が広がっている。東部の谷戸は水田地帯となっており、コイの養殖池である中子沼と数本の水路がある。水田に混ざってハス田や休耕地が存在し、ホタルの飼育観察施設も設けられている。
芳賀	No. 7 嶺公園周辺	赤城山山麓に位置し、調査ルートはほぼ全域が嶺公園の敷地内である。公園内にはアカマツ林やコナラ、ミズキなどの落葉広葉樹林が多く、谷沿いにはスギ植林が分布している。また、ルート北側に大堤沼、南側に細久保調整池が存在する。これらの池に流入する小川は林冠がうっ閉した谷を流れ、一部はミズバショウ等を植栽した湿生花園になっている。
本庁	No. 9 市街地～ 利根川河川敷	県庁周辺の市街地と、利根川左岸の河川敷から構成されている。市街地は高層建築の並ぶ前橋市の中心街で、植生は街路樹や人家の庭などにわずかにみられる程度である。利根川沿いのがけ地には、ハリエンジュ、オニグルミ、センダンなどの樹林が帯状に続いている。北部の前橋公園にはこの地点で唯一まとまった緑地がみられる。さちの池周辺は各種の植栽樹木が多いが、現地調査時には改修工事中であった。利根川の中央大橋下流側の水辺には石張りの親水護岸が整備されており、ツルヨシの群落や砂の河原がある。
上川淵 ・下川淵	No. 10 端気川沿い	市域南端の平野部に位置し、農耕地と住宅地がモザイク状に分布している。調査ルートは端気川に沿って設定されているが、この河川は両岸とも高いコンクリート護岸になっており、水際へのアクセスが困難である。周辺の耕作地ではムギとイネの二毛作が広く行われている。樹林は少なく、屋敷林や工場の垣根がある程度である。
桂萱・永明・ 城南	No. 13 大室公園～ 乾谷沼周辺	南東部に大室公園、北西部に乾谷沼があり、周辺は大部分が耕作地である。大室公園には、五料沼という大きな溜池があり、水際の植生は乏しいが、一部が湿地状の菖蒲園になっている。流入する小川は杭や自然石を配置してビオトープ的な整備がなされている。公園内は芝地が多いが、西側の丘に広葉樹林やアカマツ林がある。乾谷沼の周縁は広い湿地になっており、ヨシ、スゲ類、セイタカアワダチソウ、クズなどが繁茂している。周辺の耕作地は畑地、桑畑、水田などに利用されている。
利根川	No. 16 敷島公園～ 利根川河川敷	利根川の左岸河川敷と、敷島公園によって構成されている。利根川の低水敷にはオギ、クサヨシ、タチヤナギなどが密生している。高水敷はグラウンドや駐車場として利用されており、一部にツツジなどの植栽がみられる。敷島公園には複数の池と水路があり、釣り客が多い。公園内は大部分がクロマツ林で、一部に広葉樹林が分布する。

※基礎調査では7地区17地点で調査を実施したが、今回はそのうち上記7地区8地点を選定し調査を実施した。



写真：南橋地区（撮影：平成17年8月）



写真：（左上から）ノウサギの糞、アカネズミの食痕  
（撮影：平成17年8月）

# 調査の結果

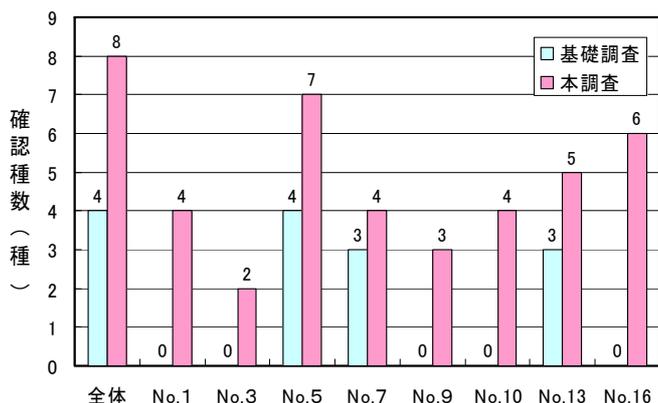


## 確認種数

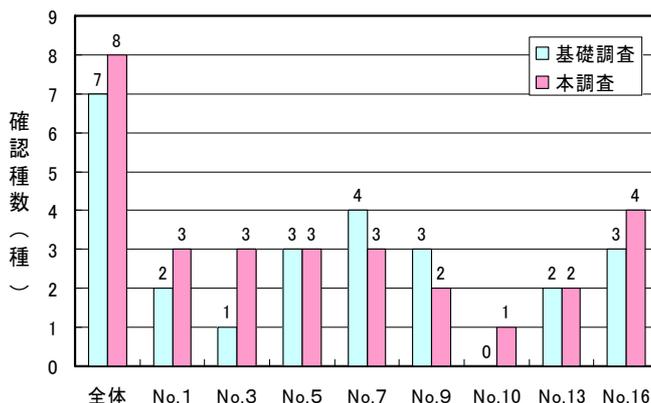
今回の調査では哺乳類で8種、は虫類で8種、両生類で7種を確認しました。なお、平成9・10年度の基礎調査において同一地点で確認した種数は哺乳類で4種、は虫類で7種、両生類で7種でした。哺乳類では4種の増加、は虫類では1種の増加、両生類では増減なしとなりました。種数の増加につながった要因として、今回はコウモリ調査とマウストラップ調査を行ったことが挙げられます。

基礎調査の結果と比較すると、No.7、No.9におけるは虫類、No.3における両生類は1種ずつの減少、No.16における両生類は3種の減少が見られましたが、そのほかの地点では増加あるいは同数となっており、基礎調査と比較して種数及び確認種構成には若干変化があるものの、確認した種の生息環境等を考慮すると、大きな変化はないと考えられました。

【哺乳類】

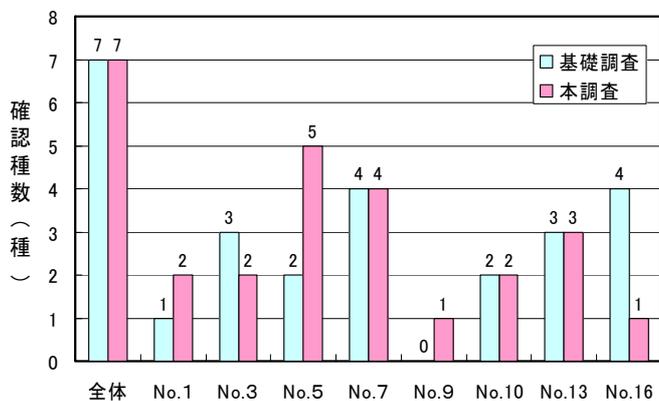


【は虫類】



注) 基礎調査は、No.5、No.7、No.13の3地点でのみ実施した。

【両生類】



写真：キツネの足跡 (撮影：平成17年8月)



注目すべき種

今回の調査結果において注目種としたのは、哺乳類ではイタチ（イタチ科）の1科1種、は虫類ではクサガメ（イシガメ科）、ヤモリ（ヤモリ科）の2科2種、両生類ではニホンアカガエル（アカガエル科）、トウキョウダルマガエル（アカガエル科）、ツチガエル（アカガエル科）、シュレーゲルアオガエル（アオガエル科）の2科4種です。

これらの種は、「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）」などに該当する希少種です。

写真：イタチ（撮影：平成17年8月）



写真：シュレーゲルアオガエル（撮影：平成17年6月）



	目名	科名	種名	No.3	No.5	No.7	No.9	No.10	No.13	No.16	出典
哺乳類	ネコ	イタチ	イタチ					○	●	○	注目
は虫類	カメ	イシガメ	クサガメ							○	準絶
	トカゲ	ヤモリ	ヤモリ				○				II
両生類	カエル	アカガエル	ニホンアカガエル			○				▲	II
			トウキョウダルマガエル	●	●			●	●		I
		ツチガエル		○							注目
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル		○	○						注目
サンショウオ	イモリ	イモリ							▲	II	

注1) 表中の記号凡例

- ：基礎調査で確認し、今回の調査でも確認した注目種
- ▲：基礎調査では確認したが、今回の調査では確認できなかった注目種
- ：今回の調査で新たに確認した注目種

■：基礎調査において、哺乳類調査が行われた地点

注2) 出典の凡例

- ※「環境省レッドリスト」に該当する種は確認しなかった。
- 「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)」(群馬県、2002年2月)における
  - I：絶滅危惧I類
  - II：絶滅危惧II類
- 準絶：準絶滅危惧
- 注目：注目種





## アマガエルは、どんなところにいるのかな？

—市民が参加してアマガエル調査を実施しました—

雨が降ると、どこからともなく聞こえてくるケロッ、ケロッ、ケロッという声。前橋市では、かつてはいたるところでアマガエルの姿をみることができました。

一生のあいだで、水の中と陸の両方の環境で生活するアマガエルは、環境の変化をみるのに適した生き物の一つです。さあ、あなたの家のまわりでは、どんなところにアマガエルはいるでしょうか。

### 市民調査の結果

市民調査の結果、71 地点での調査報告が寄せられました。

このうち、目視によって個体を確認した地点は 32 地点あり、1 個体から 2 個体の確認が 13 件と半数近くを占めている一方で、約 18 個体、20 個体以上、約 100 個体など多数の個体を確認した情報もありました。また、鳴き声によって確認した地点は 62 地点あり、半数近くは鳴き声が「多い」という報告でした。

前橋市内での確認地点を図にすると、下図のようになります。今回の調査では、目視及び鳴き声による確認数が特に多い地点は、上泉町、小坂子町、総社町、天川町、川曲町、大利根町周辺、勝沢町でした。

前橋市全域で見ると調査地点に偏りはあるものの、多くのアマガエルの確認情報が得られました。目視による確認件数と鳴き声による確認件数を比較した場合、鳴き声による確認が多く、目視により確認できた件数は少なくなりました。感想にも「鳴き声はするが、姿はなかなか見られなかった」など、鳴き声によりアマガエルの生息を確認してはいるものの、実際に目で観察できた人は少なかったようです。

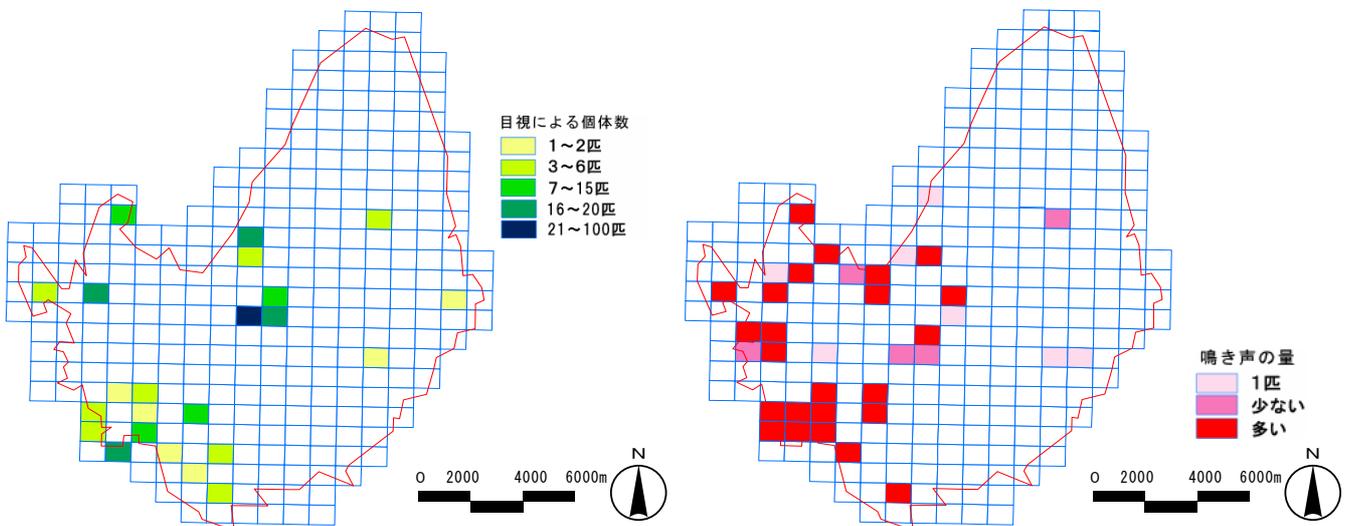


図 目視確認によるアマガエル分布図

図 鳴き声確認によるアマガエル分布図

写真：アマガエル（撮影：平成17年8月）



鳴き声や目視によりアマガエルの生息が確認された環境としては、止水環境としての田んぼ、流水環境としての農業用水路、田畑を区切るあぜ道での確認でした。

止水環境としての田んぼは、湿地で生活するカエル類の生息場・繁殖場の機能を有している環境といえます。また、確認数が特に多い地点とその環境をみると、いずれも田んぼや畑など自然環境が残されている場所での確認が多くなっていました。

一方で、学校や住宅地付近での確認も多く、密集した住宅地の中でも庭先のわずかな草地や隣接した田畑に棲みついていることがわかりました。このことから、アマガエルは、他のカエルに比べ、市街化する環境に適應している可能性が考えられます。

### 市民から寄せられた声

- 以前、アマガエルはどこでも見るのができ、調査するのに全く心配していなかったのですが、散歩しながら調査を開始してみると、なんと姿を見ることができません。どうしたのか、自然環境が心配になってきました。水路は、どんな小さなところも三面コンクリートで、水がたまっているところがありません。
- 田んぼのあぜに、まだカエルが活着ているのを見つけてうれしくなりました。前にはたくさん小さいカエルがいましたが、少し大きくなって数も減った気がします。がんばって大きくなってもらいたいと思いました。
- 住宅地の中心部ではカエルをあまり確認できませんでしたが、水田に隣接する住宅地では多くの鳴き声を確認できました。
- 住宅地では鳴き声を聞きませんでした。田んぼ、畑、草地においても鳴き声が少なくなってきたと思います。
- カエルの鳴いている場所や鳴き方がわかって良かったです。
- 体が茶色で、目から黒い線が伸びていました。
- この日、オタマジャクシから変わったばかりのカエルが無数にいました。体長がまだ1cm足らずのアマガエルらしいカエルがピョンピョンはねていて、なにかほっとする光景でした。

### ～アマガエルの主な特徴～



- ・目の横に黒い線がある。
- ・指先に吸盤がある。
- ・灰色、茶色など、体色が様々に変わる。



前橋市生活環境部環境課  
〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目12番1号  
TEL：027-224-1111（代表）  
※写真、イラストの無断転用を禁止します。